



鶏けいめいめい鳴めい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「右にも左にもかた偏へんってはならない」

聖書(箴言4章27節)

牧師 河合裕志

右というと右派と言ったりする。右翼の党派、保守的な派。左というと左派、左翼の党派、急進的・革新的な派と言ったりする。今箴言ではそのどちらにも偏るな、と。これは真ん中を行けということか。極端に行かず中道を歩めとの勧めか。

こうした論議は政治の世界の話。聖書の世界ではどうなっているのだろう。申命記にこんな言葉が。「あなたは、今日わたしが命じる全ての言葉から離れて左右にそれ、他の神々に従い仕えてはならない」(28章14節)。

左右にそれるな、偏るな。何よりも神・主の言葉を真ん中にしてこれに従え、と。これが聖書の語る中道路線ということに。これこそ正道だよ、と。正堂堂の道。

しかし神の言葉といっても宙をつかむような話。確かに。この点イエスは沢山ある神の言葉から最も重要な掟として次の二つを示してくれた。①「あなたの神である主を愛しなさい」、②「隣人を自分のように愛しなさい」。①は申命記6章5節より、②はレビ記19章18節より。要するに二つの愛に生きよ、神への愛と人への愛に。このイエスの示しは誠に有難い。これに標準を合わせて行けば間違いないよ、と。

神への愛。これは神が天地のつく創めしり主であ

り私の創造者であることを知ることによって生まれる。私という人間が今世界に居るのは神のお陰。「父なる神」と言ったりする。もう一つ、神はその独り子であるイエスをこの世に遣わした。イエスを十字架につけることによって人間の罪を赦し永遠の命を与えてくれた。こんなに大きな神の愛は他にはない。そこから神への愛が生まれる。神への感謝、礼拝が呼び起される。

そして神の愛を知った者は人への愛に押し出される。その人も神によって創られた尊い存在だから、その人にもイエスは送られ十字架についているから。それこそ神の愛は偏りなく全ての人に注がれている。

聖書は右でも左でもない中道を、神の言葉に従う道、と述べて来た。そしてこの道を行くことは右の保守、左の革新を満たす道でもあることを思う。聖書、キリスト教は二千年の昔から神とその教えを守り伝えて来た。保守中の保守。また神々、偶像、あらゆるものの神格化を拒んで来た。どの人も人として尊ばれる、人は皆平等であると主張。これは革新中の革新では。弱さを持つ私達、神の助けを頂き神の言葉を中心に置いて歩んで行きたいもの。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前10時

牧師面談：水曜日午後1時～7時